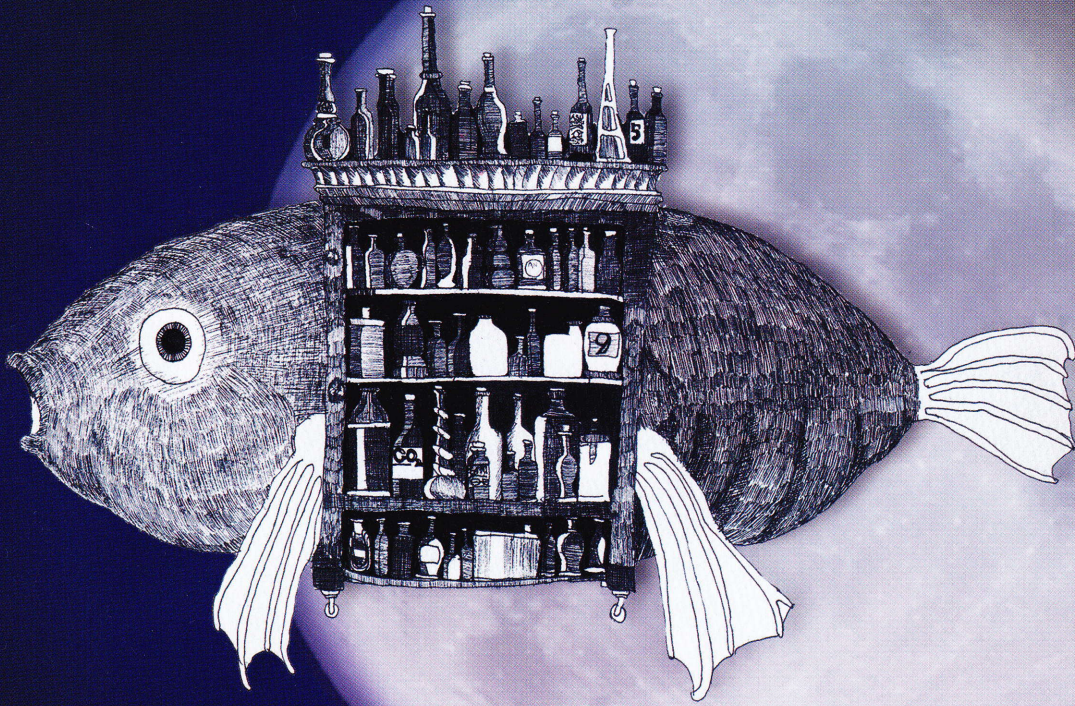


ハロー山梨演劇塾YaYaYa第15回公演

紙愛幼稚園



絵 / 関根 悠一郎

タイトル文字 / 蔭山 健一郎

作・演出 / 藤谷 清六

スタッフ

演出助手 / 塚田 仁・島津 久美子・荻野シゲ子・西木 愛 舞台監督 / 山田 寛幸 舞台監督助手 / 田草川 清・平岩 悠
照明 / 飯野 洋光 美術 / 笹本 正明 メイク / 田中 来実 ヘアメイク / 小林 淑子 衣装・小道具 / 鎌倉 博美
大道具 / 蘭 光・笹本 正明・佐々木 猛 映像・DVD制作 / 鷹野 亮司 音響 / 丹沢 昌貴 音楽 / チャイルドフード
宣伝・デザイン / 山中 みゆき スチール写真 / 山中 勲 制作 / 土井 マチ子・松永 博美 プロデューサー / 山本 眞樹

★2015年10月31日(土) 昼14:00 開演 / 夜19:00 開演

★2015年11月1日(日) 昼14:00 開演 (いずれも開場は30分前)

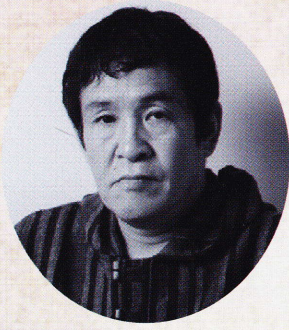
★場所: 甲府桜座 <http://www.sakuraza.jp> ★特別支援企業: (株) 明治書房

★入場料 / 前売 2,000 円 当日 2,500 円 (中・高生 1,000 円 / 小学生以下無料)

★お問い合わせ / 土井マチ子: 090-4932-8147 mail: kuninakadoi063@docomo.ne.jp

藤谷 清六: 090-3244-8006 mail: maki@mozidas.co.jp

新劇的でもない、アングラ的でもない、藤谷流



劇作・演出家・俳優・
東京工芸大学講師
劇団レクラム舎
代表 鈴木一功

藤谷さんと初めてお会いしたのは、「友情・ある半チョッパリとの45年」を蕪崎で公演した時からで、その後「友情・・・」「内はホラホラ外はスブスブ・・・」「べっかんこおに」と甲府に呼んでもらい、昨年は「翔べない二人」で藤谷さんの作品に出演した。

今回、初めて、藤谷さんの作品の稽古に参加し、私なりの意見も言わせてもらっている。藤谷さんの作品世界は渴いている。けしてウエットに流れない。人の心の裏に鋭く切り込んで、現代を炙り出す。そして不思議なユーモアが全編に溢れている。

ところが藤谷さん自身はむしろウエットで情がある。ユーモアは作品そのままだけれど。逆の作家も多くいるので、私としては、ありがたいのである。その情に甘えて、甲府で何度かの上演を実現したのだ。

劇団のメンバーにも馴染みの人が増えた。演劇（そんな固い言い方ではなくて、お芝居のほう相応しい）に対する向かい方も理解できる。真摯に藤谷さんの世界を具現化している。新劇的でもない、アングラ的でもない、藤谷流のお芝居の世界を存分にお楽しみください。

私たちは、今年末ダイアナ・ブロックホーベン原作「ジュールさんとの白い一日」を翻案して上演します。老人の死とその妻と自閉症。濃密な24時間の物語です。

桜座という劇空間で織り成される、藤谷ワールド

ハロー山梨演劇塾「YaYaYa」の皆様、15回目の公演お目出度うございます。作・演出の藤谷さんのお嬢様、関根涼子さんは、昔、私が主催していた演劇塾の生徒さんで、今夏久しぶりに甲府で再会し、その時、お父様の藤谷さんと初めてお会いし、そのままグラスを片手に夜遅くまでお芝居の話をさせて頂きました。

藤谷さんの演劇に対する、深くて熱い思いは、私の演劇の師匠である仲代達矢さんと重なる所が多く、また、あらゆるジャンルの演劇にも精通され、美術や音楽等に対しても造詣が深く、後で、今までの作品のDVDや資料を見せてもらいましたが、とても豊かな知識と想像力で、御自分の世界を、そして、面白いお芝居作りの為に、長い年月とエネルギーを使われてきた方なのだと思います。

さて、今回の『純愛幼稚園』男女四組の一見明るく、また妙に寂しい一夜の物語ですが、私は台本読ませて頂き、この作品は、大人のメルヘン物語かなと思っています。

劇中で唄われる、藤谷さん作詩の歌の中にもこのような歌詞があります。「怖かった一日でも、そっと瞳を閉じれば朝がやってくる。暗い夜はいつまでも続かない。」と、ともあれ、東京にも無い素敵な桜座という劇空間で織り成される、藤谷ワールド。私はあずさ何号かに乗って期待に胸を弾ませて伺わせて頂きます。



俳優・演出家
湯澤 紀保

桐朋学園大学芸術科
演劇コース専攻科卒業
劇団俳優座入団
株式会社仕事所属
舞台 / 夏の夜の夢 (俳優座)
ドラマ / 武田信玄 (NHK
大河ドラマ) 暴れん坊將軍
他作品多数出演

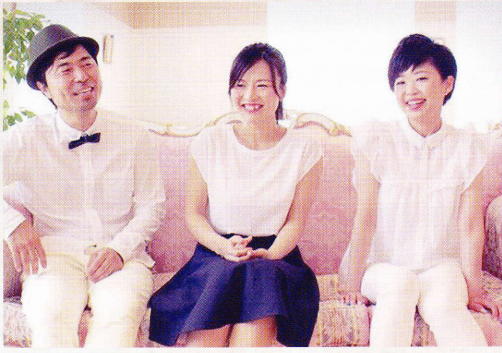
巧みな会話が繰り出す真実の嘘と嘘の真実

「純愛幼稚園」。はじめて藤谷さんからこのタイトルを伺ったのは、とある甲府山城の居酒屋である。私の生涯の生業と勝手に考えている俳句とは全く縁のなさそうなタイトルだと思っていた。しかし、台本を読ませていただくと、その内容は、俳句に必要な「象徴・間と転換・受け手が補完のための仕掛け・意外性」が全て含まれていたのである。脚本の奥の深さに感銘し、コメントを寄せさせていただくこととした。

第一場のはじまりは「最後の晚餐を模した構図」。キリストの顔は、観客が理解しやすい「補完の仕掛け」であり、ユダは独りではなく、共謀して裏切り者になる芽を覗かせる。舞台が観客席で、観客席が舞台という設定も表現者と我々の境界を取り払う。そして、第一場で古き良き時代の宴に誘われてしまうだろう。夢久美会の憲法など誰も守る者はいない。いつの間にか第二場への転換が準備されてしまう。真実の嘘と嘘の真実。繰り出される4組の巧みな会話のやり取りは、具体的であり抽象的でもある。そして、第三場ではじめて、おそらく観客が感じている「純愛」という言葉への違和感が払拭されるのだ。さて、かつて藤谷さんのお芝居に出演させてもらったが、一度舞台を共にした方とは強い絆で結ばれたような気がする。今回新しい表現者が加わったと聞く。舞台の成功と共に、藤谷さんの展開する芸術活動の裾野が広がり、これからも益々活発に続けられていくことを期待してやまない。



俳人「夏燼」同人
安部 李蹊



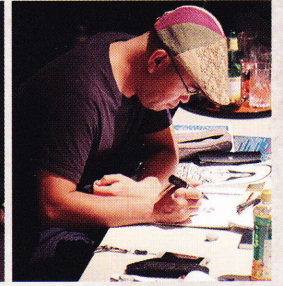
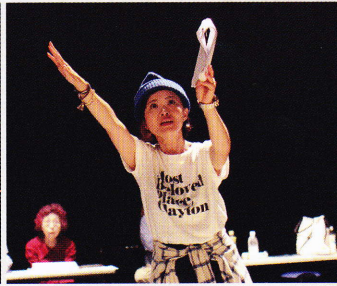
作曲・歌指導

チャイルドフッド

2003年 Erina と Mayumi でチャイルドフッドを結成。
2008年に Shimo を加えて現在3人で活動中。
富士の国やまなし国文祭 2013 イメージソング担当
アルバム「大切な時間」「純愛幼稚園の子守唄」発売中!

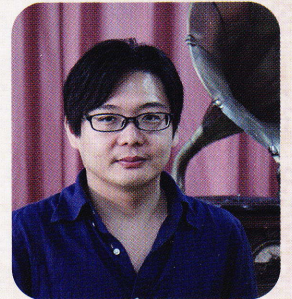
お芝居の挿入歌がアルバムになりました

藤谷清六さんの舞台に音楽で関わらせていただき早いもので10年近くなります。そして制作した曲も年々増え、今回ついにアルバムが完成しました。内容はチャイルドフッドが初めて舞台出演をした『平成龍宮事情』から今回の純愛幼稚園の子守唄まで、爽やかな恋愛、涙をこらえる大人の恋、夫婦の愛、そして桃やあずさなど山梨らしさが出ている歌など、幅広い年齢層に聴いていただける10曲です。音楽があれば楽しい時にはもっと幸せな気分になれたり、悲しい時には我慢せず涙を流すことが出来たり。音楽が人生の支えになることは沢山あると思います。この10曲が舞台挿入歌の枠を超え、様々な人生に溶け込み、一人でも多くの方の心の支えになれることを願っています。今回の舞台挿入歌『純愛幼稚園の子守唄』はアルバムタイトルにもなっています。さあ、本番で役者さん達がどんな風に歌ってくれるのでしょうか。毎回それが最高の楽しみです。



聞き覚えがないはずなのに懐かしい

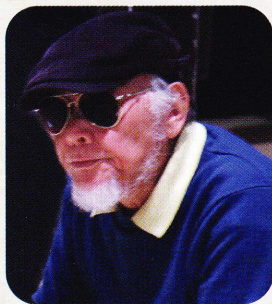
このタイトルは間違っている。「純愛幼稚園」の台本を読み進むにつれ、その思いは深まる。冒頭、8人の大人達が別荘で酔って騒いで、翌日は皆でゴルフコンペを予定している。…なんとも羨ましい。はしゃぐ気持ちに子供のような純粋さを感じた。しかし、その先はディープな大人の世界が待っている。それぞれの思惑で、自然と夫婦でない男女二人だけの空間が出来上がる…。この舞台では、多くのお座敷小唄が使われている。自身、昭和の生まれではありますが、まだまだ若手。「懐かしの昭和メロディー」と言われても、この舞台で流れる小唄は聞き覚えの無いものばかり。それでも「懐かしい感じがする」と言ってしまうのは、その頃の匂いを持った人達の言葉や雰囲気のおかげかも知れない。一方、現代を代表するチャイルドフッドの曲は穏やかで、歌詞は底抜けな優しさに包まれている。まるで、独自の憲法七カ条を掲げた「夢久美会」のメンバーを見守る、キリストの絵画のようだ。台本を読み終えたとき、このタイトルの秀逸さを思い知った。登場人物達が「青二才」と言われるのなら、私はそれどころの青さではないという事だろうか。



舞台監督
山田 寛幸

ああ、懐かしの昭和メロディーお座敷小唄

これは、このお芝居のサブタイトルです。昭和20年代、つまり私が小学生の頃、町は戦後のドサクサ、食糧難でけたたましい貧困の中がありました。日本酒に2級酒というランクがあり、親父の命令で焼酎の量り売りを買に行かされた私はそれが嫌でたまりませんでした。わずかなお金を手のひらに堅く握りしめ、夕暮れの道を友だちに見られないように歩いて行きました。大人たちの楽しみと言えば、比較的広いお座敷のある家に集まって、手作りのおつまみを食べながら皆で安酒を飲むことでした。やがて手拍子で歌い始めるのです。それがこのお座敷小唄でした。『トンコ節』『ヤットン節』『芸者ワルツ』などなど、皆で大声で歌いながら訳のわからない冗談を言って笑い転げていました。私たち子供もおつまみのおこぼれを頂き、結構楽しく遊んでいたのです。この情景を現代の舞台として立体化して大人たちの哀しい一晩の物語を書いてみました。ひょっとすると、黒髪で足の短い豊草原瑞穂の国の私たちにぴったしのミュージカルはこういうものかもしれません。劇団NL Tの賀原夏子さんが生前『ためになる芝居はやらないよ!』とおっしゃっていましたが、私も大賛成です。そんな訳で今回もまた十分に『ためにならないお芝居』ですが、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。



作・演出
藤谷 清六



竹蔵 植松 光宏

今回初めて藤谷先生のお芝居「純愛幼稚園」に出演させていただきました。私、脳梗塞で左半身不随、その上、ろれつは回らず四苦八苦、毎日憂鬱な気持ちで、病院でリハビリを受けておりました。突然、病院に見舞客がありました。何と藤谷先生と共演者佐藤眞佐美さんでした。枕元に台本をおかれ、帰り際、藤谷さんは「病は気から、病気は自分で治すもの！植松さん舞台に復帰しましょう。」と誘ってくれました。その晩、ベッドの上で、徹夜で台本を読みました。面白かった。翌朝、先生に電話しました。「先生、先生、植木屋竹蔵役を下さい。」と哀願した。佐藤眞佐美さんと練習に練習を重ねた。少しずつだが、手足が動くようになった。ろれつも回るようになった。練習が功を奏したのだ。藤谷さん、貴方は名医です！佐藤さん、あなたは名看護師です。

お梅さん 佐藤 眞佐美



私、二役やったことになるわ。私は、この度縁あって藤谷先生のお芝居『純愛幼稚園』に出演させていただきました。藤谷先生のご指導よろしく楽しいお芝居でした。私、女中役「お梅」役を演じました。相手役は植木屋の植松さんでした。私は藤谷先生のお伴で、病院に見舞いにいきました。この時、植松さんとは初対面だと思っておりましたが、以前、市川大門で私が歌った相撲甚句を聞いてくれていたのです。私も以前山崎方代をモデルにした朗読劇『山羊に引かれて円楽寺参り』を見たことがありましたと病院で演劇論を戦わせました。私も交通事故で体調を崩し十分な練習も出来ず皆さんにご迷惑おかけしました。藤谷先生、素晴らしいお梅さん役、有難うございました。植松さんとは同病相哀れむことなく同病相励ましあい練習を重ねました。練習が体調回復に役立ったとすれば、今回のお芝居で私二役やったことになるわ。

石倉先生 青戸 涼輝



ハロー山梨演劇塾「YaYaYa」の舞台を初めてやらさせていただきました。どうぞ、名前だけでもよかったら覚えていっていただけると幸いです。今回の役は、年齢差約30歳年上の初老の紳士。ベテランの共演者様に、もまれつつの出演で番は少し短めですが、現時点でのやれる最大限の演技を以て臨みたいと思います。稽古の中だけでも大いに成長でき、今回参加させていただいた意味はこれだけで十分な…少し硬すぎますね。この度は桜座にご来場くださり、誠にありがとうございます！少し長いと感じる方や、短かったと感じる方もいるかもしれませんが、ゆったりと…肩の力を抜いて見てみてくださいね！それでは～

石倉 節子 伊藤 一美



藤谷清六さんに初めてお会いした際に「純愛幼稚園」の台本をいただきました。私は活字を見ると眠くなってしまうのですが、面白くて一気に読みました。そして、石倉節子役のことばかり考えていましたが、その節子さんを私が演じることになりました。藤谷さんの芝居は、奥が深くて登場人物をよく理解しないと全く演じることが出来ません。芝居は初心者です。この台詞は、どういう意味があるのか分からなくて悩んでいると、稽古の後、藤谷さんは、補習授業をして下さって私にヒントを与えて下さいます。芝居は、役者、裏方スタッフ、そしてお客様にも御参加いただいで一緒に創っていきます。お芝居の後、しみりとほろ苦いお酒でも……………どうぞ。

塩沢 龍太 望月 タダシ



「何で芝居やってるの？」って聞かれると「面白いから。」主張があってやってるわけじゃない。世の中を変えたいとか、人を啓蒙したいとか、そんなんじゃなく、たまたま今自分が知ってるものの中で一番面白いのが芝居だから…それだけの話。芝居が麻薬的に面白いのは、役を演じる事で普段の自分には思いもよらない別の自分と出会える快感。突然、今まで会った事もない自分が目の前に現れる。そんな時は「ああ、こんな自分も俺の中には隠れていたのか。」と、少し赤面しながらも「ムヒヒヒヒッ」と一人快感に浸ってしまう。そしていつか大人になった本当の自分とも出会えるような気がしている。

塩沢 晴海 輿石 麻美



「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」(ヨハネ福音書8) 罪を犯したことの無いものはおらず、自分の正しさを根拠に人を裁く権利を持つ者は誰もいない。そして、一人の人間の罪は、それを傍観している人の側にもあり、一人の人が罪を犯す事になった背景にある社会的責任は社会のすべての人にある。キリストはその女性を裁き、排除することより、そこで起こった問題をみんなの問題として受け止めることを求め、その人の立ち直りのために赦しと愛とを与えました。身をかがめて指で地面になにか書きながら…人びとの罪を書いていたのか？注目は、我が道を行くその自由なキリストの姿！心の中は常に柔軟、自由でありたい…今日この頃です。